

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月13日現在

機関番号：16102
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22530982
 研究課題名（和文） 小学校国語教科書におけるノンフィクション教材の史的研究
 研究課題名（英文） A Historical Study of Non-Fiction Materials
 in Japanese Elementary School Textbooks
 研究代表者
 幾田 伸司（IKUTA SHINJI）
 鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
 研究者番号：00320010

研究成果の概要（和文）：戦後小学校国語教科書のノンフィクション教材を分析し、規範的人間像と国語学力の史的変容の解明を旨とした。昭和40年代までの教材では、文化人、近代化への貢献、勉学、努力、利他的精神が重視された。一方、昭和50年代以降の教材は規範的人間像を示さなくなり、近代化への批判が強くなる。福沢諭吉の場合、戦後復興期は民主国家の建設を目指す人間性のモデルとして、高度成長期には世界を目指す日本人の気概の象徴として採録され、公害のような近代化の課題が顕現化すると田中正造と交替した。

研究成果の概要（英文）：This study analyses non-fiction materials in post-war Japanese elementary school textbooks and examines the transformations of a normative image of an ideal person and the ability of the Japanese language. Educational materials until the early 1970s emphasised on creating a civilised nation, contributing to modernisation, importance of studying, effort and valuing others. In contrast, after the mid-1970s, educational materials ceased to display normative images of the ideal person and increasingly criticised modernisation. In the post-war reconstruction period, textbooks adopted Yukichi Fukuzawa as a model for the establishment of democracy and as a symbol of the spirit of the Japanese who set their sights on the world. When modernisation issues such as pollution emerged, textbooks began to feature Shozo Tanaka.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
2012年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教科教育学

キーワード：ノンフィクション、国語科教育、小学校教科書、教材史、教育学

1. 研究開始当初の背景

(1) 平成20年に告示された「小学校学習指導要領」では、国語科の第5・6学年の言語活動例として「伝記を読み、

自分の生き方について考えること。」が明記された。しかし、近年の小学校国語教科書においては伝記教材の採録数が非常に少なくなっており、実践事例

も他ジャンルに比べて蓄積されていない。こうした状況を考えると、今後、小学校において、伝記を代表ジャンルとするノンフィクション教材をどのように扱うべきかは重要な課題となることが予想される。

(2) ノンフィクション教材の学習内容を考えるにあたっては、ジャンルが持つ特性をふまえたうえで、ノンフィクション教材でどのような学習内容を設定することが可能かを明らかにすることが必要となろう。

たとえば「小学校学習指導要領解説 国語編」では、伝記の学習内容として「伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめるようにすることが大切である。」とする方向性が示されている。この記述をふまえるならば、どのような行動や生き方を学習内容として学習者に提示するか、またそのためにどのような教材を採録すべきかについて指針を持つことは、喫緊の課題となる。

(3) この課題を検討するにあたって、過去の国語教科書がどのような教材を採録し、それらの教材でどのような言語能力や規範的人間像を提示しようとしてきたかは、重要な手がかりとなると考えられる。

以上の現状をふまえ、本研究では、伝記を主たるジャンルとするノンフィクション教材について、その教育内容の史的変容を解明することを課題として設定した。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、戦後小学校国語教科書について、次の2点を明らかにすることである。

- ① ノンフィクション教材を通して学習者に育成しようとした国語学力の史的変容の解明
- ② ノンフィクション教材を通して学習者に提示された規範的人間像の史的変容の解明

(2) 本研究で考察対象とするのは、昭和22年度から平成23年度までの期間に刊行された小学校国語教科書に採録されたノンフィクション教材である。主

対象は伝記であるが、記録・報道文やルポルタージュなど、事実取材して人物の生き方や行動を描いている教材はすべて考察の対象として扱うこととする。

これらの教材について、教材調査、指導書や学習の手引きの分析、教材本文の分析、先行テキストと教材本文との比較分析を行い、上記2点について検討を行う。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、次の4段階で実施する。

- ① 小学校国語教科書教材データベースの整備
- ② ノンフィクション教材における規範的人間像の析出
- ③ ノンフィクション教材で育成する言語能力の分析
- ④ 社会的要因との関連をふまえた教育内容の史的変容の総括

(2) ①については、戦後小学校国語教科書に採録された教材を、検索・抽出が可能な形式で目録化する。また、教材本文、当該教材についての学習の手引き、指導書における教材選定の理由や学習目標、指導事項に関する記述等を収集する。

②については、採録された人物の変遷の検討、教材本文のテキスト分析、先行テキストと教材の記述内容の比較分析による同一の題材に関する記述の変容を分析し、各時代の規範的人間像がどのように特徴づけられるかを検討する。

③については、指導書や学習の手引きで提示される学習内容を収集し、分類・分析を行う。

④については、これまでの成果をふまえたうえで、代表的な教材を措定し、当該教材のそれぞれの時代における特徴を同時代の出来事や思潮と関連づけて考察する。

4. 研究成果

(1) 本研究の基礎作業として、小学校国語教科書データベースの整備を進めるとともに、国語教科書研究史に基づいて研究枠組を措定し、本研究の観点・方法の理論化を行った。

小学校国語教科書データベースについては、Excelを用いて各教科書に採録

された全教材の一覧を作成し、次の項目について調査、記入した。設定した項目は次の通りである

- ・教科書（出版社、教科書名、学年）
- ・単元名
- ・教材名（教材の名称変更がある場合は原題も記入）
- ・作者
- ・採録年度（各教科書の使用年度）
- ・該当ページ
- ・ジャンル

また、研究の観点・方法の理論化を図り、雑誌論文(4)として公刊した。この論文では、国語科教科書のアンソロジーとしての側面、カリキュラムとしての側面、規範性に着目し、それぞれについて、次のような目標と方法を設定した。まず国語教科書のアンソロジーの側面に注目する場合、教材調査に基づいて教材採録数の量的分析を行い、教材の分布・変遷を記述することが目標となる。これは教科書教材史研究の基礎作業となる。次に国語教科書のカリキュラムとしての側面に注目すると、学習の手引きや指導書の記述の分析に基づき、教科書で設定されている教育内容、及び編成されたモデルカリキュラムの変容を解明することが研究の目標となる。最後に教科書の規範性に注目すると、教材の記述に即した内容分析を通して、教科書教材が共通して提示している規範の解明、及び社会的要因が教材採録に及ぼす影響の検討が目標として設定できる。これらを国語科教科書史研究の目標として設定し、本研究の理論的基礎とした。

さらに、昭和50年代以降に教材化され、平成22年度までの長期にわたって採録された「田中正造」の伝記について分析を進めた。考察の結果は、雑誌論文(3)にまとめ、公刊している。考察に際しては、底本となっている木下尚江『田中正造翁』『田中正造之生涯』などとの比較検討、同時代の教科書に採録された他教材との関連、2種類の教材についてプロットと記述の比較を行い、「田中正造」教材自体の特質を検討した。その結果、同時代の社会的課題であった「公害」をふまえた題材の採録が社会科など教科書全体に要請されていたこと、規範的人間像としては、他人のために我が身を捨てる「義人」像が主題化され、強い規範力をもったことが析出できた。

(2) (1)で整備した小学校国語科教材データベースを用いながら、戦後に刊行された小学校国語教科書に採録されたノンフィクション教材の傾向の分析を行った。考察の結果は、雑誌論文(2)として公刊した。

戦後小学校教科書におけるノンフィクション教材の採録状況は昭和40年代半ばの教科書改訂を境として大きく変容している。昭和40年代までのノンフィクション教材には、次のような特徴が見られた。

- ① 学者や芸術家を積極的に採録して文化国家の建設を志向している。
- ② 近代化された社会の実現を肯定的にとらえ、被伝者の近代化への貢献を重視している。
- ③ 勉学の大切さ、努力、利他的精神が強調され、そうした生き方を通して何らかの成功を収めた人物が採録されている。
- ④ 世界を舞台にした日本人が積極的に紹介され、国際舞台における日本人の貢献が取り上げられている。

一方、昭和50年代以降は伝記というジャンルの教材自体が減少し、特定の考え方や生き方を規範的に示すことが少なくなる。その中で採録された教材には、次のような特徴が見られた。

- ① 歴史的偉人の採録が減り、同時代の市井の人物を主人公とするルポルタージュなどが増えている。
- ② 近代化への批判的眼差しが顕現化し、公害や環境問題といった近代社会の矛盾に対峙しようとした人物の採録が増えている。

つまり、いわゆる「偉人」の非の打ち所のない生き方をモデルとして自分たちの生き方を見つめ直すという学習内容が変化し始めているのである。この時期以降の教材は、学習者が身近に感じられる生き方を共感的に提示するようになったと言える。

(3) 研究の基礎資料である教材に付された「学習の手引き」、および指導書の記述の収集・分析を継続して行った。

また、戦後小学校教科書の代表的被伝者である「福沢諭吉」をモデルとして、学習内容として設定された規範的人間像の変容と、そうした変容と時代状況との関連を検討した。福沢諭吉は戦後小学校教科書で最も多く採録された被伝者であり、採録期間も戦後最初期から昭和54年度までの長期にわたっている。したがって、規範的人間像の

典型とその変容を検討するに際して最適な素材であると考えた。本考察は、「研究の目的」②、及びこれに対応する「研究の方法」④についての、一典型例による総括として位置付けられ、雑誌論文(1)として公刊している。

いくつかの教材について検討を重ねた結果、規範的人間像の分析に際しては、教材の典拠となるテキストを探り、採録逸話、記述・表現などが教材化に際して典拠テキストからどのように改変されたか、そうした改変の意図はどのようなものであったかを考察するという方法論が有効であった。そこで、福沢諭吉では『福翁自伝』と教材との比較検討を行った。具体的には、教材テキストに取り上げられた逸話、教材の記述の共通点と相違点について検討し、福沢諭吉に典型化されている規範的人間像と、その変容を検討した。その結果、次の特徴を析出することができた。

① 昭和20年代を中心とする戦後復興期の教材では、「福沢諭吉」を通して次の要素をもった人物像が提示されている。

- ・近代社会の実現に向けての貢献
- ・平等・博愛の思想
- ・目的の達成に向けての継続的努力
- ・勤労と孝行の重要性
- ・思想形成における両親の影響の大きさと大切さ
- ・向学心
- ・科学的・合理的思考

② 一方、昭和30年代以降の教材では咸臨丸での渡米の物語を取り上げる教材が増え、次のような人間像を見いだすことができる

- ・外的困難に負けない強い信念
- ・不屈の精神
- ・進取の気性

こうした規範性を時代状況と照らして検討した結果、福沢諭吉は、戦後復興期は民主国家の建設を目指す人間性のモデルとして、高度成長期には世界を目指す日本人の気概の象徴として採録されたと言える。

こうした特徴は他の人物にも見られる。たとえば昭和20年代に採録が集中するダルガス、リンカーン、ミレーなどには、国土の復興を進めるための思想や生き方、あるいは民主社会、文化国家への志向が反映されている。これは、戦後復興期の思潮の投影であると言えるだろう。また、野口英世や牧野

富太郎などの採録は昭和50年代まで続くが、これは、これらの被伝者が「平等・博愛の思想」や「科学的・合理的志向」を示しつつ、世界を舞台にする日本人の活躍という物語も併せ持っていたからだと考えられる。一方、昭和50年代以降、公害のような近代社会の矛盾が社会問題化するにつれて近代化への批判的眼差しが強くなり、公害や環境問題に対峙しようとした人物の採録が増えたことは、田中正造が昭和50年代以降に採録されたことと対応している。

周知のように、福沢諭吉は明治近代化の思想的指導者の一人であり、努力、勤労、向学心、合理主義といった、近代化を支える人間像を体現する人物であった。近代化についての実社会のとらえ方が変質したことともない、福沢諭吉は教科書から退場し、民衆とともに公害と闘った田中正造が登場してきたと考えることができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

(1) 幾田伸司、小学校国語科伝記教材としての「福沢諭吉」 広島経済大学研究論集、査読無、第35巻第4号、2013、5-15

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/bitstream/harp/11920/1/kenkyu201350401.pdf>

(2) 幾田伸司、戦後小学校国語教科書における「伝記」教材の変遷、鳴門教育大学研究紀要、査読無、第27巻、2012、215-224

http://ci.nii.ac.jp/els/110009511182.pdf?id=ART0009972390&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1368523940&cp=

(3) 幾田伸司、小学校国語教科書の中の「田中正造」、語文と教育、鳴門教育大学国語教育学会、査読無、第25号、2011、26-39

(4) 幾田伸司、国語教科書史研究の問題系、語文と教育、鳴門教育大学国語教育学会、査読無、第24号、2010、57-66

[学会発表] (計1件)

(1) 幾田伸司、伝記教材「田中正造」に

関する一考察、第62回中国四国教育学会、2010年11月1日、香川大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

幾田 伸司 (IKUTA SHINJI)
鳴門教育大学・大学院学校教育研究
科・准教授
研究者番号：00320010

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし